

農産FAX情報 第10号

令和7年10月1日

ゆとりみらい21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) 雑草対策

○イネ科雑草は越冬後に防除することが難しく、秋のうちに除草剤散布を行いましょう。小麦の生育状況により使用液量が異なるため注意する（FAX 情報第9号参照）。

(2) 緑肥のすき込み

○緑肥作物を栽培し地上部をすき込むことによって地下部による物理生の改善、病害軽減効果も期待できます。栽培期間を通じて肥料を土壌より吸収しますので肥料流亡対策として有効です。ほ場の生育状況を確認し、適期にすき込みを行いましょう。（例：キカラシ⇒開花後早めに）

2 てんさい

(1) 貯蔵時の注意点

○収穫したてんさいを、ほ場に一時堆積・貯蔵する場合は、被覆シートなどで被覆し、腐敗・乾燥を防止する。また、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も実施しましょう。

3 豆 類

(1) 収穫作業

○本年の成熟期はほ場によりバラつきがあります。倒伏や子実水分、葉落ち程度を確認し、収穫時期を調整することが重要です。

4 有機質肥料の散布・臭気対策

○家畜糞堆肥の散布は、硝酸態窒素が地下水へ流亡しないよう積雪および土壌凍結が発生する前に終わる。

○散布後は速やかにプラウ等で耕起し、堆肥を埋没、混和して臭いを抑えるよう心がける。

5 農作業事故防止

○秋は、農作業事故の発生が最も多い時期となっております。降雨や強風などの影響も受けやすいため、機械点検や準備を行い、遅れてもあせらず作業しましょう。

○ばれいしょや豆類の収穫作業では「巻き込まれ・挟まれ事故」「転落事故」に注意！作業中に茎葉や石などの「つまり」が発生した場合には、必ずエンジンを停止。回転の停止を確認してから作業を行う。作業機の乗り降りには運転者に合図をし、停止してから行う。

○日没が早くなっているため、道路走行時に後方から来る車両に気づかれやすいよう、前照灯や車幅灯を早めに点灯し、低速車マークや反射板・反射シールなどを取り付け追突防止に努める。